

授業科目名	アカデミック・ライティング			担当教員	力武 由美、高瀬 文広	
開講年次	1 年前期	セメスター	1	時間数(単位数)	30 (1)	
必修選択	必修	授業形態	演習	使用教室		
授業の目的	論理的批判的思考と他者との議論に基づいて、自分の見解や訴えを、他者に理解されるように明確に表現する文章を書く技能を高める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章作成の前提条件を認識し、適切な構成と表現を企画することができる。 2. 情報を収集し、その質を吟味して、論証の中に有機的に引用することができる。 3. 自分自身あるいは他者による批評を受容して、改善に生かすことができる。 4. 実務的学術的な文章に用いられる語彙と表現、文章構造に関する知識を活用することができる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	どのような「文章執筆能力」を目標とするのか：文章の目的による分類 テキスト第1章、第2章	講義	予習としては、毎回テキスト該当箇所を読んで、ポイントを理解して、授業に臨む。 語彙表現自習 学習計画立案	60 - 90分	力武 高瀬	
2	実務的文章作成の作法：概念の構造化と表現 テキスト第3章	講義	語彙表現自習 講義・演習の復習	60 - 90分	力武 高瀬	
3	分析・リライトおよび作成課題A-1 テキスト第4章	講義+演習	課題文執筆	60 - 90分	力武 高瀬	
4	分析・リライトおよび作成課題A-2 テキスト第5章	講義+演習	課題文リライト	60 - 90分	力武 高瀬	
5	課題文Aの相互評価 テキスト第6章	講義+演習	評価活動内省	60分	力武 高瀬	
6	映画鑑賞	演習	感想メモ執筆、情報調査	60 - 90分	力武 高瀬	
7	映画の批評共有 テキスト第7章	講義+演習	紹介批評文執筆	60 - 90分	力武 高瀬	
8	紹介・批評文相互批評 テキスト第8章	講義+演習	映画・批評文リライト	60分	力武 高瀬	
9	代表者コメント発表 テキスト第9章	講義+演習	最終課題の主題構想	不定	力武 高瀬	
10	作成課題C-1：構想	講義+演習	課題文執筆	60 - 90分	力武 高瀬	
11	作成課題C-2：相互評価	講義+演習	リライト	60分	力武 高瀬	
12	作成課題C-3：修正案相互評価	講義+演習	リライト	60分	力武 高瀬	
13	発表会	演習	自己評価、相互評価	60分	力武 高瀬	

14	力試し	—	—	—	力武 高瀬
15	まとめとフィードバック	講義	—	—	力武 高瀬
先行履修 科目					
テキスト	戸田山 和久：論文の教室—レポートから卒論まで。NHK 出版，2012.				
参考文献	二通信子 他：留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック。東京大学出版会，2009。 三森ゆりか：外国語で発想するための日本語レッスン。白水社，2006。 野田尚史：なぜ伝わらない、その日本語。岩波書店，2005.				
科目の 位置づけ	<p>発信すべき情報を選択し、高等教育を享受し、専門家として、社会の責任ある成員として活躍していくための基礎技能である。母語を正確に理解し、母語を使って正確に適切に発信する技能は、外国語を学ぶための必須要件でもある。したがって、本学の教育の基本概念である「看護」「人間」「環境」「健康」「国際」のすべてに関係している。</p> <p>また、研究テーマに係る文献リサーチをし、そこから問いをみつけ、主題を設定し、エビデンスに基づく論証を展開する一連の作業は、「自己教育力」を養成するものである。さらに、執筆に当たっては、先行研究および著作権を尊重するモラルを身に着け、エビデンスに基づくライティング作法を身に着けることから、「人間の尊厳と権利を擁護する力」を養成する科目でもある。</p>				
ディプロマポリシー との関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
	○	◎			
評価方法	活動への積極的参加 30%、提出物の完成度 40%、試験 30%				